

氏名	林 逸 正
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 5 8 0 号
学位授与の日付	昭和48年 9 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	胸部下行大動脈遮断に関する研究 —とくに一時的体外バイパス法の実験的研究—
論文審査委員	教授 田中早苗 教授 大内 弘 教授 中山 沃

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

血管系の手術は血流を遮断して行なわねばならない。胸部下行大動脈瘤の手術において下行大動脈で血流を遮断すれば、腎臓、脊髄その他血流遮断末梢側臓器の乏血による合併症が起る。又遮断中枢側では心負荷が著るしく、左心不全を惹起させる。さらに遮断解除時にショックが発生する。従って胸部下行大動脈で血流を遮断するには何らかの補助手段が必要である。その手段として現在ポンプを用いた左心バイパス法が最も普遍的に行われている。しかし本法はその灌流操作は煩雑であり、しかもヘパリンの使用によつて術中術後の出血が多い。

著者は胸部下行大動脈遮断の補助手段として左鎖骨下動脈から左総大腿動脈へ人工血管で長いバイパスを作成することにより、血流遮断末梢側を灌流する一時的体外バイパス法の安全性について、犬を用いた実験により、血行動態の面および遮断末梢側臓器とくに腎臓、脊髄の組織変化より追求した。さらに臨床例 6 例に応用し、術中術後の合併症もなく安全に根治手術が可能であった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、胸部下行大動脈瘤の手術に関する研究であり、本研究者の創案になる左鎖骨下動脈から左大腿動脈へのバイパス法によって、従来の方法にみられた欠点を改善できることを実験的ならびに臨牀的に立証したものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。